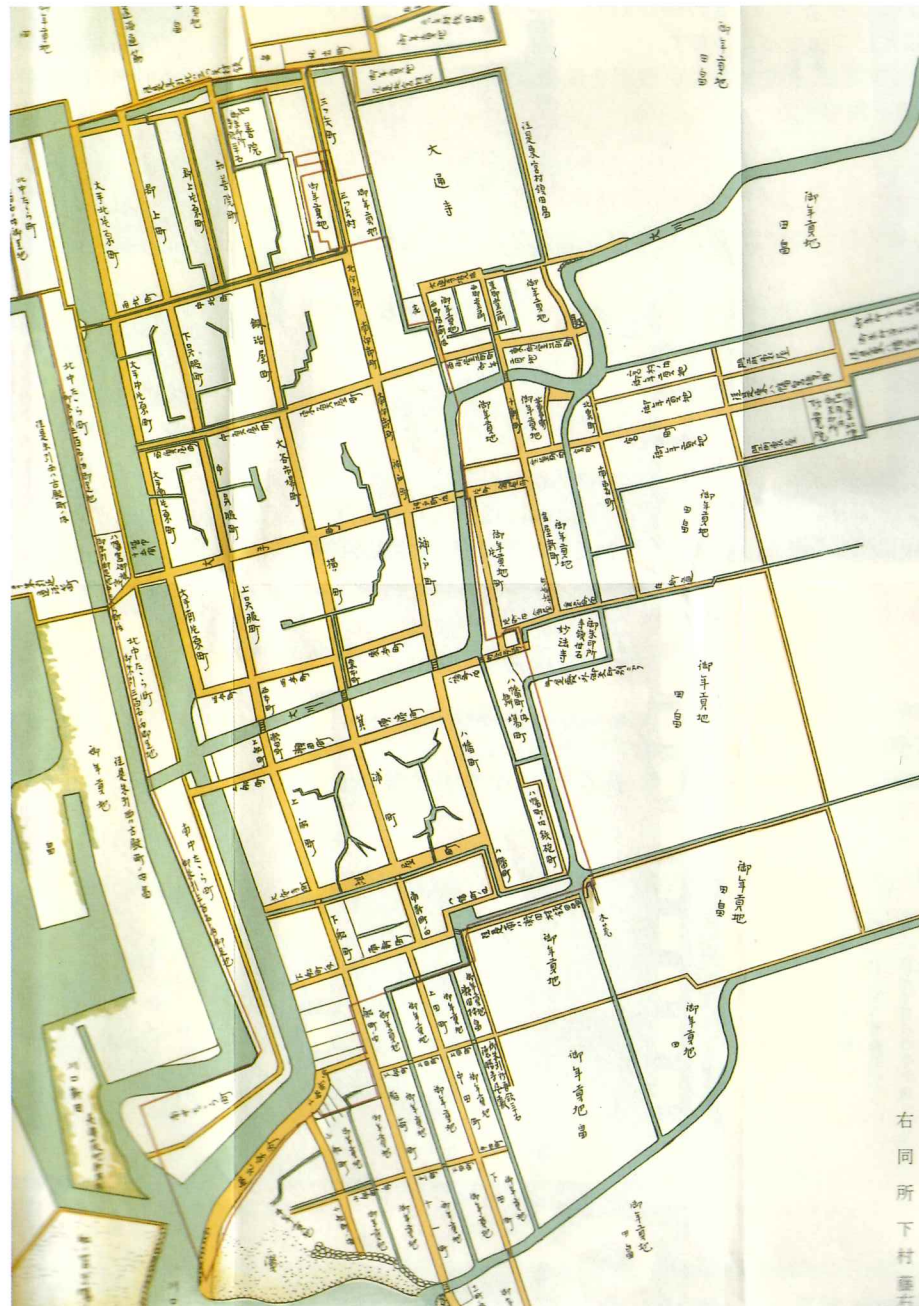


Yonegawa Note

2025年3月発行



▲米川位置図 元禄9年長浜町絵図



▲米川河口部(大正期)



▲どんどん橋から西向き(昭和30年後半)



この事業は、
平和堂財団環境保全活動
助成事業の助成を受けて
実施しています

あなたも、米川フレンドに
なりませんか？
申込先はこちら



Would you like
to join!

制作・編集・発行

長浜まちなか地域づくり連合会

連絡先 ☎0749-64-2753

長浜市高田町12-34 ながはま文化福祉プラザ内 ✉ntd.rengoukai@gmail.com

HPはこちら



米川・
かわまち
づくり

「ここだな、わしは子どもの時、
窓からピワマスをつかんだんや」
「ナマズを石の間でつかみ、
ゴリが黒い帯の数珠になって
上がってくるのを見てきたんや。
米川のこっち側も向こう側も
自分の家や。
自分の家の中を川が流れていて、
その川が汚れるのは納得できへんやろう。
川が汚れるのは
家が汚れるようなもんなんや」
というのが片野さんの口ぐせでした。

※片野(喜代士)さん 1970代頃、長年にわたって
米川の清掃活動のリーダーとして活躍。
※出典「生活環境主義でいこう」(語り：嘉田由紀子
構成：古谷桂信 岩波ジュニア新書(2008・5刊行))

もう一つの曳山 まちなかに残る“キセキ”の川 米川

I 米川 × 地域・暮らし

1. 米川がもたらすおいしいやすらぎ

昔は、舟運の水路、野菜などの洗い場、子どもの遊び場。今も、兩岸は石積みで、随所に、水路とも結ぶ石段やカワドが残る。湧水に恵まれ、水質の良い清流が流れる。川近くには、神社や地藏堂、曳山山蔵などが点在し、暮らしと深く結びつく。四季折々に、花木が様々な景色を見せる。私たちの貴重な財産。

2. 米川に関わる地域の人たち

“川が汚れるのは家が汚れるようなもんなんや”は、米川の清掃活動に取り組まれていた故・片野喜代士さん(米川支流を愛する会会長・昭和50年発足)の言葉。今も、毎年5月から6月に、沿川の自治会が中心となって、県・市の協力のもと、ポイ捨てごみを拾い、雑草や藻の刈り取りなどの河川清掃の活動。米川支流環境づくり協議会や各自治会でも、随時、河川清掃を実施。

3. 米川の自然再生への取組

米川の水環境を良くし、米川に蛍を取り戻そうと、地域住民で結成された「米川で蛍を愛でる会」は、四半世紀、毎年、ホタルの飼育から放流、観賞会など、地道な取り組みを展開。



▲針屋橋からの風景

▲どんどん橋付近



▲河川清掃



▲ホタルの放流

▲ホタルの乱舞

II 治水対策が基本



▲米川の溢水(平成20年)

▲知事米川視察(平成29年)

川幅が狭く、曲折しているため、大雨の都度、洪水が頻発。滋賀県に対処策を要望するも、人家に近く、川底が深いため、護岸のかさ上げや本格的な浚せつが困難。

しかし、滋賀県知事の現地視察を機に、平成30年に、県・市・地元の三者による米川流域治水対策協議会が設置され、令和8年度の完成をめざして、遊水地の整備といった画期的な事業が進められています。

III 米川・かわまちづくりの展開

平成30年の「ぶらり 長浜まちなか再発見!」(路地裏歩き)を機に、その翌年に、米川の川歩きがスタート。「汚いから遊ぶと言われてきたが、遊んでみたい」「東京から移住したけど、まちなかを清流が流れているなんてキセキ」など、感嘆の声。様々なワークショップを開催するたび、みんなのやりたいことがてんこ盛り。“やりたいこと”“できること”からやってみようと、「米川・かわまちづくり」がスタート。



▲米川まつり(ヨーヨー流し)

▲千本灯火

まちなかの新しい魅力づくりへと!!

米川 マザー リバー ゴールズ (MRGs)

まちなかを流れ、地域の人たちの暮らしと密接なつながりを持ち、固有の歴史文化が色濃く残るキセキとも言える米川。地域の顔・誇りとなる水辺空間づくり、やりたい人やできる人の“まぜこぜ”で、関心を寄せる人たちのネットワークづくりを基本に、5つのゴールをめざすなか、まちなかの新しい魅力づくりを展開します。

Goal1 米川への関心を高めよう ～まちなかの新しい魅力の発信!～

- 川なかでの遊びや競技、灯ろう流しなど、大人も子ども一緒に、“米川まつり”を楽しもう。
- 乱舞する蛍の光、川壁に吊るした淡い照明の灯りなどで、米川の魅力を高めよう。
- “米川フォーラム”を開催するなど、米川を地域資源としたまちづくりを考える場をつくろう。



▲灯ろう流し



▲お魚の観察

Goal2 米川を美しく、再生しよう ～米川を世界水遺産に!～

- 多様な生き物の生息・生育環境を育み、土砂の堆積や草の繁茂をなくしていくため、置き石を設けるなど、米川を再生しよう。
- 川歩き体験で、小学生、高校生や大学生らが、ポイ捨てごみを拾いながら、足をとられつつ、キャーって楽しんでいます。この川歩きは、川を耕す(サブザブ歩きで、川底の藻が取れ、ビワマスやアユが好む環境へと変化)こととなり、川をきれいにすることにつながっています。
- 米川へのポイ捨てや生活排水のたれ流しをなくすなど、川を汚さない取組を進めよう。
- 米川の豊かな自然景観や、歴史・文化的な景観を残そう。



▲世界水遺産(三島市・源兵衛川)



▲曳山博物館横での置き石

Goal3 米川の生き物や水環境をもっと知ろう ～米川を自然水族館に!～

- 米川の環境づくりに取り組んだ多くの先人の教えを大切に、新たな学びを加えながら、次世代へと米川の良い環境を引き継いでいきます。
- 貴重な動植物など、様々な生き物が暮らしていることや、米川の水質の状態を、観察会や動画などで知ってもらおう。
- 米川の生き物が生息・生育・繁殖できる場所を保全・再生・創出しよう。



▲魚つかみ

Goal4 米川で遊ぼう ～米川をプレイパークに!～

- ペットボトル製の川床(いかだ)に乗ったり、灯ろう流しを追っかけたり、お魚を捕まえ観察したり、子どもたちが、安全に楽しく遊べる場をつくろう。(曳山博物館、長浜幼稚園、どんどん橋付近)

Goal5 地域内外の新しいナカマと楽しもう～米川が、人とひとをつなぐ“穀(こしき)”に!～

※穀(こしき) 車輪の軸を受ける部分のこと。

- 大学生をはじめ、応募してくれた米川フレンドなど、地域内外の“やりたい人”“できる人”の「まぜこぜ」で、ナカマの輪を広げて、ネットワークづくりを進めよう。
- 米川の治水や自然再生について、滋賀県・長浜市との協働化を進めよう。



▲市内高校生ワークショップ



▲米川ビワマスフォーラム



▲滋賀県立大学生の川耕

米川ビワマスプロジェクト

米川には、かつては、多様で豊かな自然に、それに寄り添った美しい暮らしがありました。そんな米川で、子どもたちが生き生きと遊ぶ風景をつくりたい。このことを目標に、これまでの取組に加え、望ましい米川の姿を次世代に取り戻し、環境との共生という大きな課題に布石を打つため、ビワマスが遡上できる環境づくりに取り組みます。

- ビワマスが産卵し、生息し、生育しやすい環境づくりに取り組もう。
- 野洲市・家棟川など、ビワマスの生育活動に協力し、学びます。

米川ビワマスプロジェクトのホームページはこちら



長浜市立病院
付近で発見された
成魚



▲ビワマスの産卵床づくり(with 虎高新聞部)